

静岡県のオープンデータ化に関する取り組み



令和5年10月11日

静岡県経済産業部森林・林業局森林計画課 主任 白井達也

目次

- 1 県の森林情報オープンデータ化の経緯
- 2 県の森林情報のオープンデータ化の状況
- 3 県のオープンデータ化の今後の方向性
- 4 オープンデータ化に関する課題

1 静岡県森林情報オープンデータ化の経緯

オープンデータについて

オープンデータとは



国、地方公共団体及び事業者が保有する官民データのうち、国民誰もがインターネット等を通じて容易に利用（加工、編集、再配布等）できるよう、次のいずれの項目にも該当する形で公開されたデータのこと※

- ① 営利、非営利目的を問わず二次利用可能なルールが適用されたもの
- ② 機械判読に適したもの
- ③ 無償で利用できるもの

※総務省ホームページより抜粋

情報の公開だけではオープンデータとは呼べない

静岡県のオープンデータ化の歴史

2003年
(H 1 5)

「静岡県森づくり百年の計委員会」の立ち上げ

2005年
(H 1 7)

県条例 「静岡県森林と県民の共生に関する条例」 制定

2008年
(H 2 0)

静岡県森林情報共有システムの運用を開始

2015年
(H 2 8)

ふじのくにオープンデータカタログなどで
全国で初めて森林情報の総合的なオープンデータ化を実施

2019年
(R 元)

航空レーザ計測による3次元点群データを取得・公開（Virtual Shizuokaプロジェクト）

2020年
(R 2)

3次元点群データの解析で得られた高精度森林資源情報を地域協議会等を通じて林業経営体等に公開

2023年
(R 5)

静岡県森林クラウドシステムの運用開始

オープンデータ化に至った経緯①

2003年
(H 1 5)

「静岡県森づくり百年の計委員会」の立ち上げ

今後の森林整備の在り方を検討する外部有識者からなる会
本県の森林を良好な状態で維持していくためには、
「持続可能な森林整備システムを構築する必要がある」との提言

「森林情報を共有するためのシステム」の検討開始

2005年
(H 1 7)

県条例 「静岡県森林と県民の共生に関する条例」 制定

森林・林業施策の推進に向けた新たな枠組み
県民総参加による合意と連携の仕組みを作ること定義

「森林との共生」を推進する考え方が森林情報を積極的に公開する原動力

オープンデータ化に至った経緯②

2008年
(H20)

静岡県森林情報共有システムの運用を開始

森林情報をインターネットで広く公開

- ・ 情報利用に対する明確なルールがない
- ・ 複製や再配布等の加工可否が不明

非常に利用し難い情報

森林情報の利用を促すため

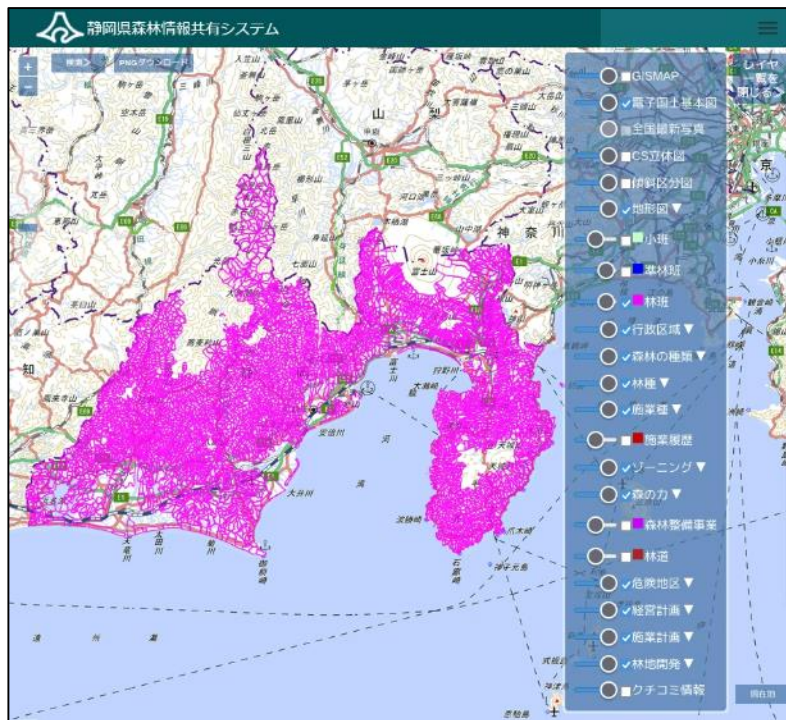
世界標準の「オープンデータ」に



当時の森林情報共有システムの画面

2 県の森林情報のオープンデータ化の状況

静岡県森林情報共有システム



静岡県森林情報共有システム

森林簿

検索メニュー

- 森林簿
- クチコミ森林情報
- 森の力再生事業
- 森林整備事業
- 林道
- 保安林
- 山地災害危険地区
- 林地開発
- 森林経営計画

森林簿は、県が地域森林計画の付属資料として、森林の位置、林種、樹種などの森林資源情報を取りまとめた台帳です。静岡市、浜松市、島田市では旧市町村単位で作成しています。（利用上の留意事項をご参照ください）

市町村
熱海市：あたみし

大字
▼選択して下さい

地番
~

☐ 代表地番以外も検索
【注意】 代表地番のため、全ての地番が検索されるわけではありません。

林班
~

（留意） 入力は半角3ケタです（例001）
大字が選択されていないときのみ指定可能です

- ・ G I S と連携した森林簿や森林計画図等の情報管理
- ・ 閲覧が主体だが、 C S V 、 jpeg形式等でも利用可能

利用規約等を定め、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの表示のもと公開

クリエイティブ・コモンズ・ライセンスとは

- ・ インターネット等で、著作権を保持しながら情報公開するルール
- ・ 「条件を守れば作品を自由に使うことが可能」という意思表示が可能
- ・ 世界中で広く使われ、国も推奨するオープンライセンス

 表示 (BY)	 非営利 (NC)
作品のクレジットを表示すること	営利目的での利用をしないこと
 改変禁止 (ND)	 継承 (SA)
元の作品を改変しないこと	元の作品と同じ組み合わせのCCライセンスで公開すること

当県の森林情報は、原則「CC-BY」で公開



原作者のクレジットを表示することで、改変・営利目的での二次利用を許可する最も自由度の高いライセンス

ふじのくにオープンデータカタログ

CC-BYライセンス

- ・当県が運営するオープンデータを公開するページ
- ・計画区ごとの森林簿のCSVデータ、森林計画図のshpデータなど、二次利用を想定した容量の比較的大きなデータ、GISデータなどを掲載

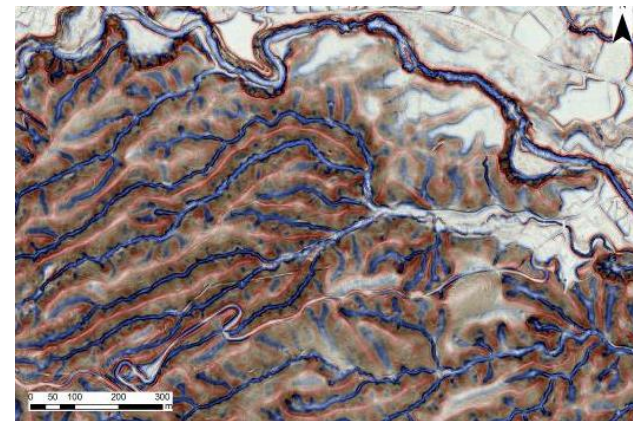
G空間情報センター



G空間情報センターウェブページ※1



3次元点群データ※2



C S 立体図

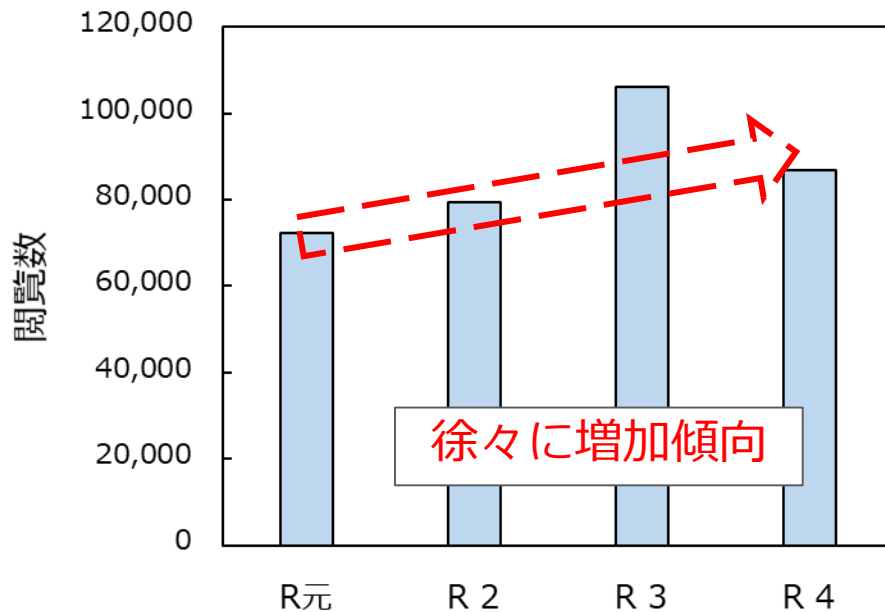
- ・ C S 立体図や3次元点群データ (Virtual Shizuoka) など、ふじのくにオープンデータカタログに掲載が難しい**大容量データを掲載**

※1 出展：G空間情報センター (<https://front.geospatial.jp/>)

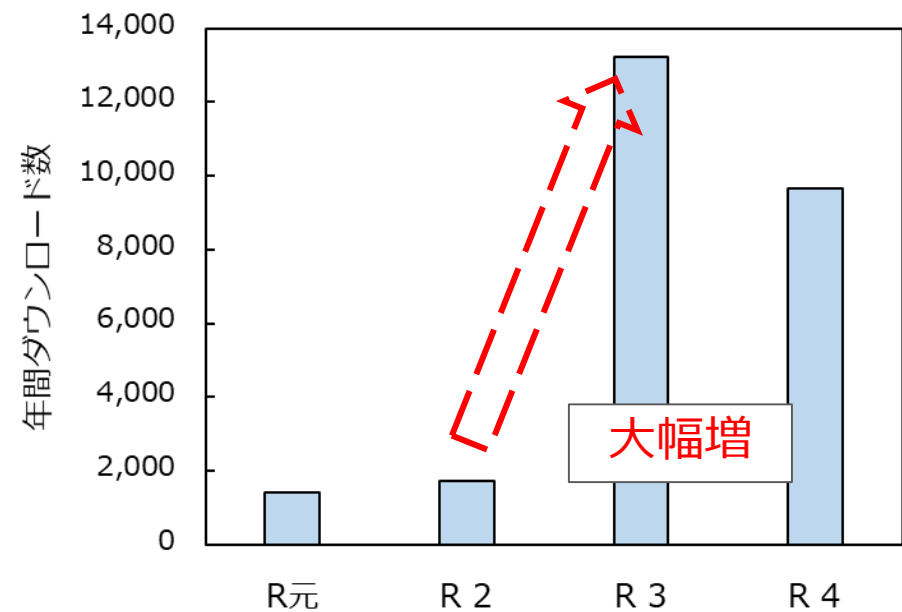
※2 出展：VIRTUAL SHIZUOKAプラットフォーム (<https://3dview.tokyo-digitaltwin.metro.tokyo.lg.jp/#share=s-mVduTQw8aGtl08Zj>)

オープンデータの利用者数

森林情報共有システム



ふじのくにオープンデータカタログ

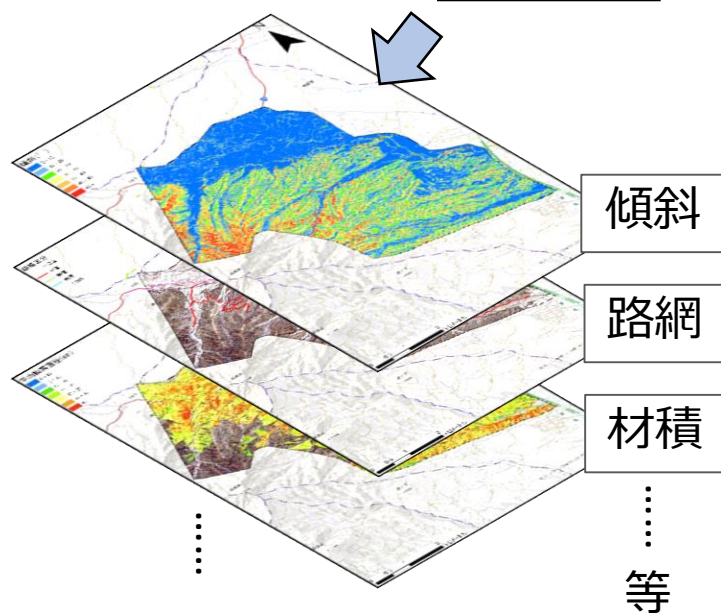
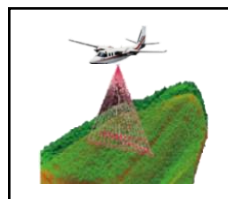


増加の主な理由

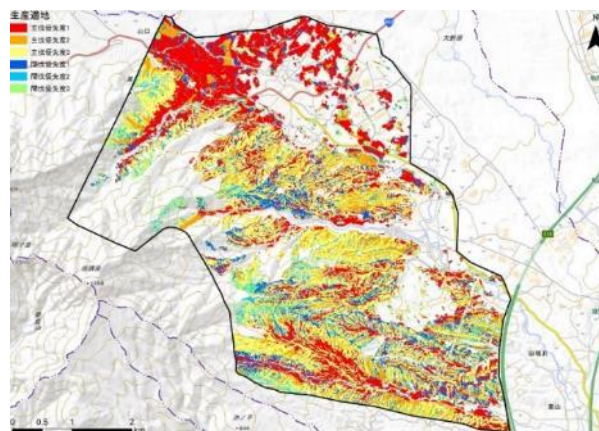
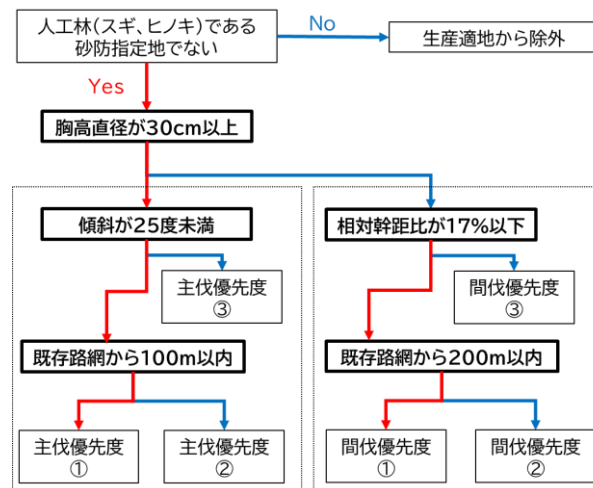
- R 3 の熱海市伊豆山の土石流災害
- J クレジット制度の広がり

オープンデータとしての森林資源情報の需要の高まり

高精度森林資源解析情報の公開・利用



- ① 高精度森林資源解析成果を地域協議会等を通じて**林業経営体等に提供**
(地形・森林情報の把握)

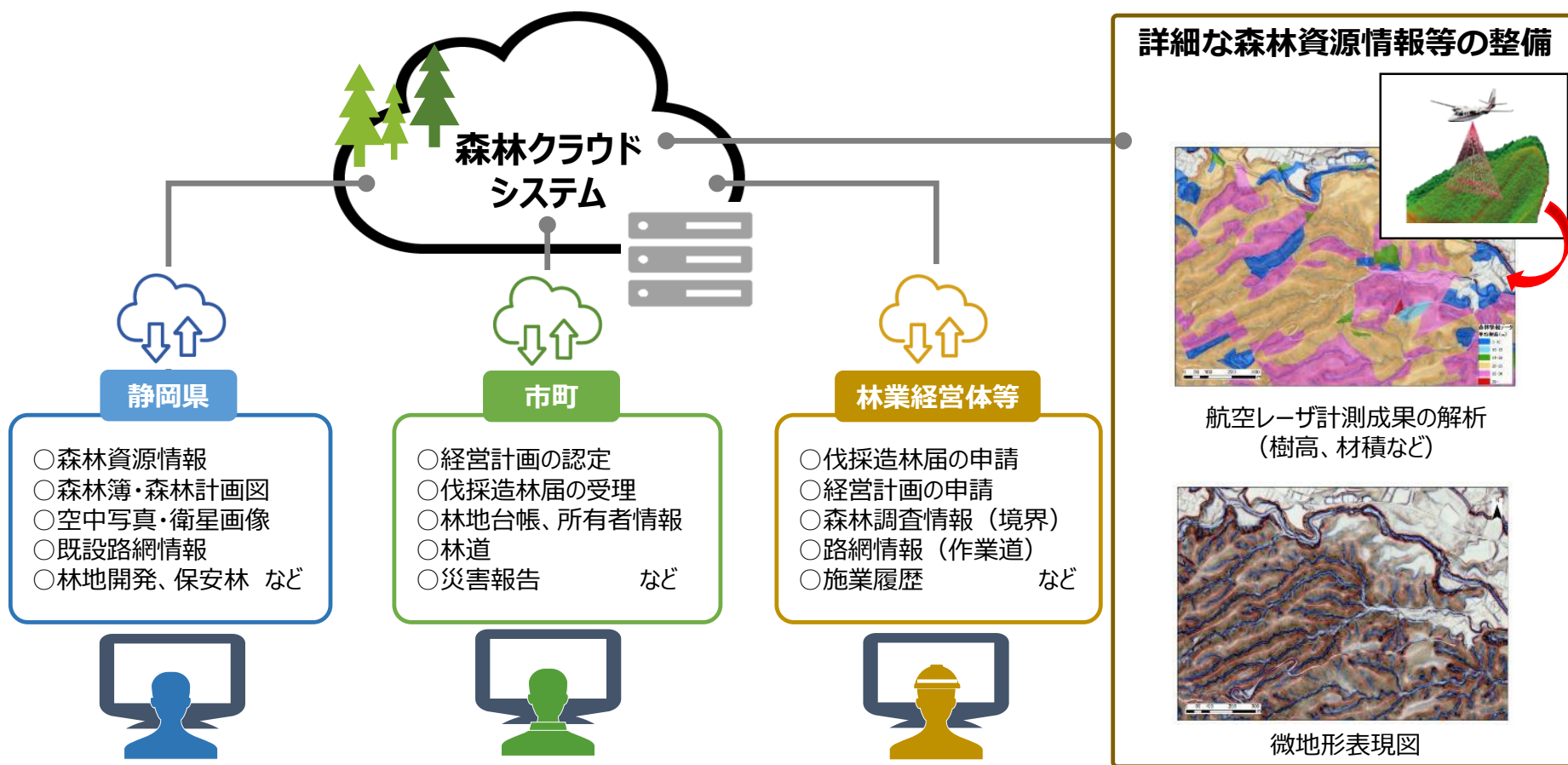


- ② 地域に適した生産フローを作成し、
生産適地分布図を作成

3 当県のオープンデータ化の今後の方向性

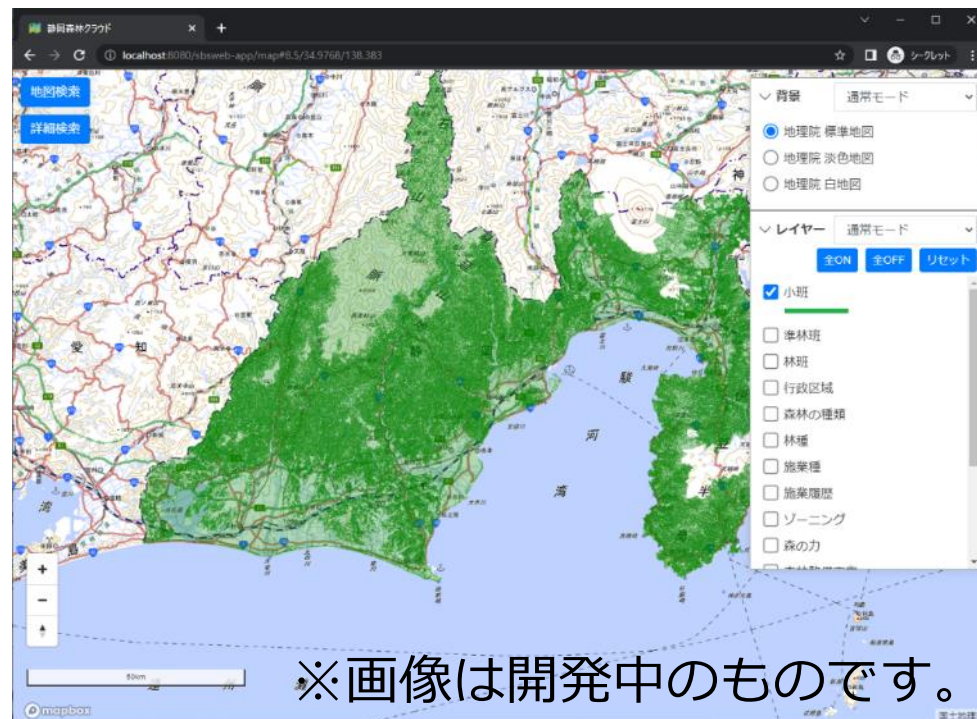
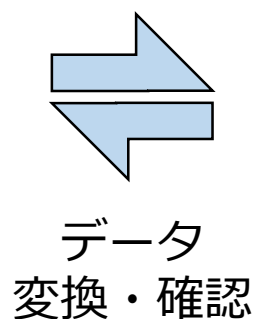
森林クラウドシステムの利用

- ・クラウド管理会社のサーバにシステムを置き、県・市町・林業経営体等がそれぞれの権限でデータを閲覧・編集
- ・森林情報をリアルタイムに共有し、森林の管理体制を強化
- ・伐採造林届等のオンライン化により、業務を効率化

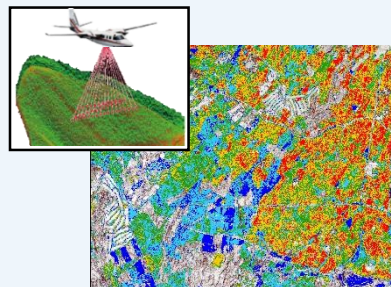


森林クラウドシステムの利用②

- 森林情報共有システムのプラットフォームを森林クラウドシステムへ変更（令和5年12月公開予定）
- 森林クラウドから公開までのデータ変換をスムーズに実施



高精度森林資源解析情報のオープンデータ化



高精度森林資源
情報の取得



地域協議会等での利用



オープンデータ化

課題

- ・ 高精度森林情報の取得範囲の拡大
- ・ 公開方法や公開の範囲などの設定

4 オープンデータ化に関する課題

オープンデータ化に関する課題

課題

- オープンデータとして提供する森林情報の精度担保
- 3次元点群データの解析成果等の情報更新の方法
- オープン化のデータ変換のための予算確保
- 公開に関する明確なガイドラインがない
 - 情報提供すべき内容が不明確
 - 個人情報や財産情報に関する情報の線引きが難しい
- オープンデータ化の効果が見えにくい

など

オープンデータ化に対する議論



このような問題を踏まえても...

情報公開が県民の利益に繋がるものと判断

利用条件明示により、情報提供者の免責等が明確化

まとめ

静岡県では、森林資源情報の有効活用のためオープンデータ化をさらに推進

森林資源情報の広範な活用を期待